

五

REEL No. 1-0488

0286

附屬書類添附

亞細亞局

第三課

(本信馬別紙(運送付)

機密公第四號

大正十一年二月七日

在海龍

副領事 淺山龍二



外務大臣伯爵内田康哉殿

海龍分館管内在住鮮人、教育醫療

民會費補助金支出方關朝鮮總督府

(交渉方稟請)件

客年十一月日中書記生當分館へ赴任、途次朝鮮總督府へ立寄り、時管内務局長矢島第一課長と面談、切欠島第一課長より本

在鐵嶺領事館海龍分館

分館管内、在住鮮人多數ナレハ之ヲ保護取締方ニ付盡力ヲ希望シ尙小民會ニシテ相當内容アルモノ及教育機關醫療機關設置ノ必要アル場合ニ之ニ對シ小學校教師一人年額八百圓也、醫師ハ專屬ナレバ年額二千四百圓也、囑託ナレバ年額一千貳百圓也、補助金ヲ支出スベク教科書及新聞紙ハ無料給與スベキニ付詮議ノ上何分ノ羨取計ハレ度旨懇々依頼、趣有之候ニ付今般左記ノ通、補助相仰度候間御詮議ノ上朝鮮總督府へ御交渉方可然御取計相成度此致及稟請候敬具、
迄テ本件ニ關シテハ事務簡捷上當分館ト總督府ト臨時便宜直接通信方御許可相成

機密
受第 5 號
11.2.16

第四号

客年

度此致送申候也

寫送附先

在奉天總領事

在鐵嶺領事

在撫鹿分館主任

左記

在鐵嶺領事館海龍分館

一 教育費

本分館管内在住鮮人人口は、昨年十二月末調査に於て
 貳千六百三十一人、一萬三千二百四十六人、コレテ小學教員
 童教(十五分迄ノモ)三千四百二十一人、コレテ内極メテ不完
 全ナル教育ヲ受ケ居ルモノ僅カニ三百餘人、他ハ全部何
 等教育ヲ受ケテトナク、児童數ハ逐年増加ノ傾向
 大ナルモノナレバ、父兄ハ鮮人ノ民族性トシテ教育機
 關ノ設置ニ関シ種々計畫シ、熱心努力カスルモ皆之
 カ經費支辨ノ道ニ窮シテ比々失敗ヲ繰返シ、ソレ
 ノ状態ナリ、尤モ不逞鮮人跋扈時代ニ在リテハ種々不
 逞思想宣傳費ノ出處アリテ教育機關モ之ヲ濫用
 スルトコトナリシ爲メ、經費支辨ノ途アリシト雖、現任
 無資カ、朴訥ナル農民ニ於テハ自力如何トモスル能ハザル

エノニシテ自然水宿ニ於テ補助指導ノ要アルハ乙チ
キモニ有之候而シテ之ガ補助金ハ他ノ医療機関
ト共ニ相當金額ニ上ルモノナリト雖然レトモ之等文化
的根柢救済機関ニ依リテ不逞思想ヲ根絶シ以テ
彼等不逞輩ノ為ノニスル無意義ナル支出ヲ思ハバ
寧ロ其額ノ小ニシテ且効果ノ大ナルヲ思ハザルヲ得
ザルモノニ候事情如斯ニシテ現在急設ノ要アルモノハ
書堂程度ノモノニ止メ追而リ其時機ニ達スルニ及テ普
通學校程度ノモノニ進メ度所存ニシテ土地ノ實
情ヲ綿密調査ノ結果其設置地書堂數教師
數必要教科書種別及部數書堂經費中補
助ヲ要スルモノト認ルル程度ノ金額ハ別紙一紙表ノ道
ニ有之候

在鐵嶺領事館海龍分館

追テ教科書送附先ハ鐵嶺領事館宛ニ相願
度此故申添候

二、醫療費

管内在住鮮人ノ人口數ハ別項教育費ニ関スル項中
ニ記載ノ如ク二千六百三十八一萬三千四百六十八ニシテ尚
逐年増加ノ傾向大ナルモノナリカ文ニ對スル医療機
關トシテハ全然皆無ノ状態ニシテ一ニ鮮人ノ醫業ニ後
事ナルモノアルモ何等醫師タル資格技術ナキモノニシ
テ全然信賴スルニ足ラズ又在海龍赤十字救護團派
遣医一人アルモ技術優良ナラス支那入醫師トシ
テハ勿論亦其以下ノ状態ナレバ罹病鮮人ノ大
部分ハ自然ノ成行ヲ放置スルモノニシテ極少數ノ
猶口資力アルモノハ賣藥又ハ右不完全ナル鮮人医

又支那医ノ治療ヲ受クルモノフルモ之トテモ幸ニシテ医師在
任地附近在任ノモノニ限ルモノナレバ實ニ悲惨ノ状態ニアリ
ト言フベク人道上又日本國民トシテ放置スルニ忍ガレモノニ
有之候事情如此ナレバ醫師ノ派遣ハ保護救済上
ノ急務ト認メ土地ノ實情罹病率等綿密調
査ノ結果其派遣地ノ醫師數之ニ要スル補助金額
ハ別紙第二号表ノ通り有之候
追テ醫師數ノ人口ニ比シテ少キハ巡回施療セシムル
方針ニ因ル費用ノ少キハ同胞ノ爲メ献身的努
力ノ精神アルモノヲ選擇採用ノ方針ニ原クモノニ
候

三、自治團體費

管内鮮人自治團體ノ現状及費用ニシテ補助ノ

在鐵嶺領事館海龍分館

要アリト認ムル金額及補助ヲ受ケタル金額、客年十
月二十日附更ニ機密第二號ノ秘密信ヲ以テ及報告
置候通ニ有之候處右補助ニシテ本省ヨリ御支出
可能ナレハ此上モナキヲナカラ萬一其運ニ至リ兼候場
合ニ其儘朝鮮總督府へ御交渉方可然御取
計相仰度尤モ右補助金ノ給付方法及使途
監督ニ関シテハ本官ニ於テ實情綿密調査ノ上萬
遺漏ナキ様具體案有之候
次ニ總督府ニ於テ配付方希望ノ新聞紙ニ関シテ
ハ其配付地ノ種類及部數別紙第三號表ノ通り
有之候

(第一號)

教育機關ニ関スル表

設置地名	児童数	書堂数	教師数	教科書種別及部数	要補助金年額
柳河地方	二〇四八	一〇個	一〇人	国語讀本 一年用 一五〇部 二年用 二〇〇部 三年用 二〇〇部	六〇〇円
南北城地方	七四六	四	四	朝鮮語讀本 一年用 一五〇部 二年用 二〇〇部 三年用 二〇〇部	二四〇〇円
様子崎地方	四八一	三	三	修身書 一年用 一五〇部 二年用 二〇〇部 三年用 二〇〇部	一八〇〇円
輝南地方	一一二	二	二	習字帖 一年用 一五〇部 二年用 二〇〇部 三年用 二〇〇部	一、二〇〇円
朝陽鎮地方	三八	一	一	算術書 二年用 二〇〇部 三年用 二〇〇部	六〇〇円
合計	三四二八	二〇個	二〇人	各種別教師数 理科書 二年用 二〇〇部 三年用 二〇〇部 理科書 三年用 二〇〇部 外教師用 二〇〇部 各種別教師数 相審部数	一、二〇〇〇円

在鐵嶺領事館海龍分館

(備考) 一、第一回児童收容数、總教ノ半トシ書堂一個處宿

一〇〇人ヲ二部又三部教授ノ方針ナリ

二、教科書ハ之ガ購入ノ資力アルモノニ對シテハ勿論相當金

徴收ノ方針ナルモ從來ノ状態ニテハ殆ト困難トモナリ

三、補助金書堂一個處當六〇〇円ハ教師ノ俸給及維持費

ノ一部ヲ含ムモノニシテ右金額ニテハ勿論不足ナルモ不足

額ハ父兄ヲシテ負担セシムルノ方針ナリ

(第三節)

自治團體費及新聞紙三關表

所在地及配付地名	團體名	各地方人口	新聞紙	全上部数
柳河 柳河三蒸浦地方	柳河朝鮮居留民會	七九二〇	四〇冊	五冊
北山城 南北山城子地方	北山城子朝鮮人農業組合	二八八九	二〇冊	三冊
樺子嘴 樺子嘴地方	樺子嘴朝鮮人僱民會	一九〇〇	三〇冊	二五冊
輝南 輝南地方	輝南朝鮮人農業組合	三九八	二〇冊	一五冊
朝陽鎮地方	朝陽鎮地方	一三九	一〇冊	一〇冊
合計		二〇〇	一〇〇	一三〇

在鐵嶺領事館海龍分館

(第二節)

醫療機關ニ關スル表

派遣地名	醫師數	要補助金額	備考
柳河地方	二人	四八〇。日	上記補助金額は、醫師ノ年俸 及治療費補助額ノ一割ヲ食 ムニシテ、右金額ニテハ、底不足ナルモ 不足額ハ、支那人患者ノ對シテ治療 費ノ收入ヲ年率ニシテ以テ之ニ回費及施 療費ニ充當スルノ方針ナリ
南北嶺地方	一人	二四〇。〇	
様子哨地方	一人	二四〇。〇	
海龍地方	一人	二四〇。〇	
合計	五人	一三、〇〇。日	

在鐵嶺領事館海龍分館

大正十一年十月廿九日

第二課

朝鮮

并進初案ニテ
新入社務事業
於其計劃ノ條
ハハ屋名ヲ訂
ナシテ其ノ條
奉天州於其ノ
ラキニ其ノ業
ハハ在社務ニ
オケル

拜啓陳者今般浦館管内在鮮人ノ教育醫
療、民會補助金支出方ニ関シ別紙機密公信
第四號傳通リ外務大臣一及稟請コトノ相成
申候右ハ同傳ニ記述ノ通り總督府藩局ノ希
望モアリ旁々管内實情精査ノ結果其運ニ至リ
シ難モノナルガ小官ノ愚見トシテハ不逞思想ヲ根絶シ
テ不逞鮮人ノ跳梁ニ其處ヲ失ハシムルハ實ニ今日ニ
アルモノニシテ良農鮮人ヲシテ跳我施設ニ信賴シ不逞
輩ノ言ニ動カサレトコトナカラシメンガ爲メニハ一方先年
ノ武力の方策ト共ニ今般ノ文化的施設ハ以
上ニ必須ノモノニシテ其時機ハ正ニ今日ヲ以テ絶好機
ナリト愚考仕候又一方經費ノ点ヨリ觀ルモ不逞
輩ノ爲メニスル其ニ比スレバ今回ノ文化機關ニ數スル
モノハ決シテ大ナリトハセラレサルモノニシテテ國家的主
場ヨリ觀察スレニ於テハ鮮人統治ノ一端トシテ又管
内鮮人ノ全部ガ水田米作業者ナル莫ヨリ日本食
糧問題解決ノ一端トシテ今回ノ施設ハ是非共緊
急實行ノ要ニ迫ラレ居ルモノト愚考仕候(管内水
田初産額二十萬石)然レモ鮮人ハ其民族性トシテ又
其經濟的能力ノ貧弱ナル莫ヨリシテ之ガ根本的故
濟ハ独リ文化施設ノニシテハ決シテ遂行シ得サルモノ
ニシテ其處ニ經濟的施設ヲ伴フノ要アルモノト信シ申
候此經濟的施設ニシテ宜シキヲ得ハ鮮人ハ其所ニ
安樂淨土ヲ得テ安心定住シ衣食足テ禮節ヲ
知リ得ルト同時ニ支那人ハ其有スル荒地ヲ生

在鐵嶺領事館海龍分館

産力大ナル水田トシテ相済収益ヲ達シ得テ鮮支
人即チ日支人ニ相互共益共存ノ本義ヲ實行シ得
ルモノト愚考仕候此見地ヨリシテ管内ノ實情ヲ精
査ノ結果該水田業ハ確ニ前記日支共存ノ目的ニ通
フモノニシテ又實行可能ナルノミナラズ比較的容易ニ
手ニ得ルモノナルコトヲ知り申候ニ就テハ最初ヨリ大規
模ニ根本的ニ解決スルニハ多額ノ資金ヲ要シ且又現
狀尙租問題ニ對スル支那官憲ノ態度ヨリシテ實行
困難ナルニシテノ觀念ヨリ最初ハ先ツ支那官民ト強
ト利害關係ナキ否寧ロ支那民商ノ喜ツク鮮農産
出ノ水田初買付及精米(鮮農人初ノ賣取及精米ニ因
難ニ悉クモナリ)方面ヨリ着手シ漸次便宜ノ處置ヲ以
テ根本的ニ土地關係ノ解決ニ進メ度所存ニテ目下

在鐵嶺領事館海龍分館

管内居住内地人會ヲ統一シテ彼等ヲ從來ノ白里
ノ旧惡態ヨリ救出シ正業ニ勵マシムル目的ニテ東山啓
發協會ナルモノヲ組織セシメテ共同一致シテ右記初
買付及精米業ニ出資盡力セシムル計畫ニ候右計
畫ニ關シテ東山啓發協會ハ去ル三日創設セラレ又
精米業ニ對スル調査、談業創始案及經營法ハ
小官手許ニ於テ略成致居ル次第ニ有之候在而右
計畫實行ニ際シテハ其資本ヲ金銀何レニスベキカ又
經營方法ヲ如何ニスベキカ其他詳細ニ涉リテ其道
権威タル野井徳三氏ニ指導援助ヲ仰度所存
ニテ又一歩進テ土地商租ノ爲メ固定資金ヲ要スル場
合ト相成候ハ(目下管内ニ於テ一ニ許日支人間ニ水田
地主租成之ニ概々タルモノアリテ將來ハ勿論大部分

可能ナルヲ現在水田地作付及別七七八九八支那畝一
畝日本六六畝ニシテ末開可能耕地ハ其數倍アリテ何
レモ灌漑容易ナリ駒井氏ヲ始メ大方關係各位ノ御
援助ヲ得テ東亞勸業東拓滿鉄等ヨリ資力ノ援助
ヲ得テ是非共遂行致度覺悟ニ候ヘバ貴官ヨリモ
豫ノ其旨駒井氏ニ御傳方相願度其際ニハ又充
分ノ御指導ト御援助ヲ賜度前以テ及變態願
置候故具

大正十一年二月十日

在海龍

田中書記生

亞細亞局

川越第三課長殿

在鐵嶺領事館海龍分館

文書課長

大正十年二月二十日起草
大正十年四月一日號

親展

送第 / 號

私行

主任

施役

主 菅亞細亞第貳課

相場

菅亞細亞

相場

在協龍

海山副領事宛

川越三治長宛

おれ美島法道を考へて彼却統解人向
 一、受シ種々打答らん計劃ヲ樹テシ配慮
 一、段事由事案ノ下ニ日付付概表公分回分米行
 一、付下ハ朝録伝録等種々種様ノ旨ヲ打上ル事也

事務官

公文書案

文書課長

大正十二年三月廿二日接

(甲號用紙)

文書課發送

大正十二年三月廿二日發送

淨書

正校(原稿)

出卷(淨書)

主管 亞細亞局長

主任 亞細亞第三課長

(起草大正十一年三月二十日)

亞三機密 普通 第一六號

大正十二年三月二十二日附

別紙 通

受信 人名 拓殖局長官

發信 人名 外務次官

海峽分館管内主任解人ノ教育医療
件名民會補助金支出方ニ関シ朝鮮
領務府ハ東洋方ノ件

級 込 名 補助

本件ニ関シ在該分館主任ヨリ別紙寫ノ通

稟請有也 修復後右ノ時宜ニ適シタル計画

公文書案

外務省

要再回

會計課長
本署課長

本件ニ関シ在該分館主任ヨリ別紙寫ノ通稟請有也 修復後右ノ時宜ニ適シタル計画
 海峽分館管内主任解人ノ教育医療件名民會補助金支出方ニ関シ朝鮮領務府ハ東洋方ノ件
 受信 人名 拓殖局長官 發信 人名 外務次官
 級 込 名 補助
 同信ノ三項自該團體費ニ就テハ同分館管内
 柳河島旧来ノ民會ヲ改メテ滿洲保民會支部
 ヲ新設スル件ニ付本目下事ヲ了スルノ關係公館
 長ハ該議中ニ有テ其結果ヲ待ツテ尙有豫
 算中補助額査定ノ上改メテ朝鮮總督府ニ

(戊辰用紙)

仰協議致スヘク尚同信追書直接通信ノ件ハ
 三月七日振分四四六八號 要旨意解人ノ去来通報
 方ノ件申具信傳申致ノ次第ニ有テ實際是等
 ト一括申統一的ニ信傳協議申上ノ件書付
 津議申上ノ件係申致ノ次第ニ有テ實際是等
 申進修

別紙ハ二月七日付機密公文(四半)披露來行信付司
 信寫ノ件係申致ノ次第ニ有テ實際是等

外務省

本寫爲參考及送付候也
 大正十一年七月九日
 拓殖局
 外務次官 叙

寫

亞細亞局

第三課

社第七六號

大正十一年六月六日

繼込名

朝鮮總督府政務總監 水野鍊太郎

拓一 第九六六七號
 大正十一年六月九日

普通
 受第 97
 11. 6. 10

要目付

拓殖局長官 川村竹治 叙

海福領事令館管内在任鮮人ノ教育醫療民

金費補助金支出ニ關スル件

四月八日附拓一第九六七號ヲ以テ首題ノ件ニ關シ
 御照會ノ趣了承取ノ五月三十日附内務第八號ヲ以テ
 鐵嶺岩村領事宛直接左記ノ通牒致置候條左ニ
 依リ御了知相成度及回答候也

記

拓殖局

大正十一年度對在外鮮人施設費中補助割當ニ關スル件

政務總監

鐵嶺岩村領事 宛

貴地方在任朝鮮人ノ爲教育費醫療費其他ノ補助配
 當方ニ付御申出ノ次第ニ有之候處教育費ニ付テハ一
 應外務省トニ打合セ不日所當ノ豫定ニ有之醫療費及
 視察團補助費ハ左記ノ通牒當ラレ候條也ニ依リ實
 施計畫ヲ樹テ其ノ補助ヲ受ラヘキ團體ヲレテ必要
 ノ時機ニ於テ當該補助金ノ下附方ニ付申請セシメラレ
 候様致度此段及通牒候也

記

一 醫療費補助

鐵嶺朝鮮人會

三、〇、〇、〇日

柳河縣朝鮮人居留民會	三二八〇
海龍保民會又公之代々團體	三〇〇〇
榛子哨保民會	三二八〇
北山城子農業組合	三二八〇
二 視察團費補助	

拓殖局

REEL No. 1-0488

0302